月刊 やちまなこ

2024. 5.15 発行

No.318

5 月号

釧路湿原国立公園　塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより

旧岩保木水門［ 昭和六年（1931 年）竣工 ］

5 月に入り、すっかり春めいてきた釧路湿原では、夏鳥が勢揃いをし、ウグイスやムシクイ類の声が木霊している。林床にはエゾエンゴサクの涼しげな青紫が咲き誇り、早くも短い春は終わろうとしている。

1920 年の夏。釧路の街に未曽有の大水害が起こった。所謂、釧路川大洪水である。多くの家屋が流され倒壊し、行方不明者を含め 10 名の尊い命が犠牲となったという。事態を重く見た行政は、蛇行した釧路川を残しつつ新たな直線河川を造り上げた。この旧水門は本来の釧路川と直線化した新釧路川を隔てるように設けられて、その後 59 年間釧路の街を水害から守ってきたと言える。現在は’90 年に竣工した新水門がその役割を継ぎ、旧水門は一度も開くことなく、今では歴史的建造物として、また夕日の撮影スポットとして訪れた人達に親しまれている。

塘路フィールドノート【4/15～5/14】

【野鳥】

冬鳥の姿が少なくなり、今年も夏鳥の季節がやってきました。湖畔の森や湿原帯で、ウグイスやムシクイなどの夏鳥たちが春を謳歌しています。オオジシギの降下音も、この時期ならでは。

アオサギ（コロニー）

コロニーは放卵中と思われる。うっかり巣に近づくと、周辺はちょっとした騒ぎとなる。サギ科。

コムクドリ（塘路原野）

この時期によく見掛ける野鳥。雄は頬に赤茶色の斑紋があり愛らしい。ムクドリ科。

オジロワシ（塘路湖）

多くのワシが北へ旅立つ中、湖畔に居残る個体群が一定数いる。国の天然記念物。タカ科。

チュウヒ（シラルトロ湖）

今年はよく見掛ける。湿原帯に潜み、時々葦原の上を旋回して獲物を探す。タカ科。

オオジシギ（サルルントー）

別名を「カミナリシギ」と呼ばれ、降下する羽音が湿原に響く。北海道は繁殖地。シギ科。

オシドリ（塘路湖）

仲睦まじい夫婦の象徴。雌鳥に前をいかせるのが夫婦円満の秘訣なのカモしれません。カモ科。

【植物】 早春の草花の開花は例年通りという感じであったが、湖畔の桜の開花はゴールデンウィークの始まりに間に合わず、後半に漸く咲き始めた。これから華やかな花たちが湖畔を賑わせる季節がくる。

キタミフクジュソウ [北見福寿草]
塘路周辺では最初に咲く春の花。フクジュソウと違い花は 1 茎 1 輪。花言葉は「幸福」。キク科。

エゾエンゴサク [蝦夷延胡索]
福寿草よりも少し遅れて咲く春の花。おひたし等にして食べる人もいる。ケシ科。

アズマイチゲ [東一華]
これも春を告げる白い花。暗い林床に群生する。花言葉は「静かな瞳」キンポウゲ科。

エゾヤマザクラ [蝦夷山桜]
4 月末の悪天候の影響か、今年は少し遅めの開花でした。花言葉は「優れた美人」バラ科。

ミズバショウ [水芭蕉]
やちぼうずと同環境に見られる春の湿原の花。花言葉は「美しい思い出」。サトイモ科。

クサソテツ [草蘇鉄]
若芽は通称「コゴミ」として、春から初夏の山菜として有名。コウヤワラビ科。

【昆虫】 春の開花に合わせるように越冬明けのマルハナバチやタテハチョウが活動を始めた。シジミチョウは 4 月末に孵化し、綻び始めた冬芽に潜りこんだ頃。芝生のエゾシカの落とし物には森の掃除屋たちが集まり、よい働きをしてくれている。

メスアカミドリシジミ卵 (塘路原野)
GW 頃に孵化をする蝶の越冬卵。幼虫は鮮やかな黄色で山桜の新緑の葉に見事に擬態する。シジミチョウ科。

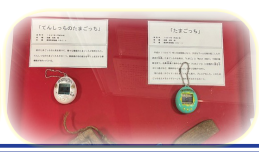
エゾオオマルハナバチ (塘路湖畔)
セイヨウタンポポの花で吸蜜する女王蜂。働き蜂が羽化するまでが大忙し。マルハナバチ科。

オオセンチコガネ (塘路湖畔)
エゾシカ糞に依存する金緑色が美しいコガネムシ。成虫で越冬する。センチコガネ科。

◎ニタイ・トの新しい資料たち

4月27日(土)～5月5日(日)までの期間、当館レクチャールームでは、「ニタイ・トの新しい資料たち」(標茶町博物館との共催行事) を展示公開しました。

近年標茶町博物館へ寄贈された、それぞれの時代を感じることが出来る資料たち。懐かしい道具や写真。当時流行っていた玩具やレコード盤などのほか、今は見ることも少なくなった蓄音機などが紹介され、拝観された方達からは、「懐かしいね～」という声が上がっていました。



【両生類・哺乳類】 厳しい冬が終わり、小動物たちも漸く動きが活発になってきた。

キタサンショウウオ（釧路湿原）
今年は産卵が少し早かったようで、青白く光る卵塊を観られなかった。サンショウウオ科。

エゾアカガエル（塘路湖畔）
合唱に春を感じるカエル。今年の合唱はあっという間に終わってしまった気がする。アカガエル科。

アメリカミンク（釧路川）
潜水し器用にウグイを咥えてきた。養殖されたものが野生化したもの。特定外来種。イタチ科。

6月の自然ふれあい行事

事前の申込が必要です。

初夏の湿原 野鳥観察会

［日　時］　6月8日（土）8時～10時
［定　員・参加料］　15名　無料
［開催場所］　シラルトロ湖・蝶の森周辺（集合はシラルトロ自然情報館駐車場）
◎申込・問合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで

初夏の湿原 展望台散策

［日　時］　6月22日（土）10時～12時
［定　員・参加料］　15名　無料
［開催場所］　サルルン展望台周辺（集合はサルボ展望台駐車場）
◎申込・問合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで

初夏の花を見に行こう

［日　時］　6月9日（日）10時～12時
［定　員・参加料］　15名　無料
［開催場所］　温根内ビジターセンター
◎申込・問合わせは温根内ビジターセンターまで
（0154-65-2323）

◆日出・日入時間　4/15(4:38,18:04). 4/30(4:15,18:22).5/14(3:58,18:38)

～指導員のひとり言～
■毎年この季節になると思うことですが、釧路湿原の春は短いと感じる。少し暖かくなってきたと感じ始めたら、あっという間にスプリング・エフェメラル（春の花）が終わり、夏鳥が勢揃いしてくるのだ。

今年のゴールデン・ウィークは桜が遅くて、淋しい湖畔でしたが、後半には咲き始めて、ノロッコ号の利用者も、立ち寄って行かれる方が増えてきた。

カヌー体験の帰りに立ち寄られた本州からの来館者からは「カヌーからタンチョウやオジロワシが見られた」と目を輝かせて話されるのを耳にすると、釧路湿原の豊かな自然は、北海道の資産であると改めて感じる今日この頃です。

釧路湿原国立公園
塘路湖エコミュージアムセンター あるこっと
〒088-2264　北海道川上郡標茶町塘路原野
TEL：015-487-3003　FAX：015-487-3004
E-mail：emc@kushiro-shitsugen-np.jp
インスタグラム　torokoemc
開館時間：10：00 ～ 17：00
（11 ～ 3月：16：00 まで）
休館日：毎週水曜日　12月29日～1月3日
入館無料